



令和3年度 宿利原小学校だより

宿っ子

6月号



学校のホームページは上のQRコードからお入りください



一人一人の輝きを大切に

校長 有留 盛昭

「おはようございます。〇月〇日、〇曜日。今日も一日元気に過ごしましょう。8時になったら、校庭に集まってボランティア活動を始めましょう。」

子供たちの学校生活は、この放送から始まります。児童数10名の宿利原小学校では、3年生から委員会活動を行います。係の児童は、放送機器のスイッチを入れ、はきはきとした口調で気持ち良く話します。おそらく学校の周辺まで届く音量の校内放送は、児童にとっては、大きな責任と共にドキドキ感やワクワク感を伴うものだと思います。この3年生から始まる委員会活動に象徴されるように、本校のような小規模の学校では、全ての子どもが6年もの間に様々な役割を経験し、一人一人に責任感を育てていきます。

8時になると校庭に子供たちが集まり、ボランティア活動をしたり体力づくりをしたりします。この10分間は先生方も共に活動してはいますが、完全に子供たちの自主的な活動となります。新年度が始まり、4月から登校後の子供たちが「先生、今日は校庭ですか。体育館ですか。」「今日は、何をしますか。」と、毎朝確認していました。自分たちから、活動内容を確認し、自分たちで道具を準備し、活動を始める。時には、先生方に力を借りながらも、自主的に活動を進めていました。

ところが最近「今日は、何をしますか。」の声が聞こえなくなってきました。どうやら、肝属地区陸上大会に向けての練習や宿っこ田んぼに取り付けるかかし作りの準備など、今必要なことを、高学年中心に決めて活動を始めたようです。抱えている課題を整理し、やらなければならないことを決定して、それを実行する。自主的を超えて、主体的な活動へと変容してきました。主体的な活動には、勇気や自信が必要です。高学年を中心とした全ての子供たちのこれからの頑張りを、今後も見守りたいと思います。

宿利原小学校では、学校経営の方針を「小規模校のよさを生かした活力ある学校～一人一人の輝きを大切に～」と定めて、10名の子供たちの指導を行っています。小規模校だからこそ、一人一人の実態に応じて、きめ細やかな指導や支援が可能であり、これまでも子供たちは様々な作品展や発表などでたくさんの賞をとるなど素晴らしい成果を挙げてきました。



高学年による読み聞かせ

一方で、きめ細やかに指導ができるからこそ、一人一人の失敗経験や思い悩む経験が少なくなることがあります。多くの友達の中で議論したり、分裂したりする経験も少なくなります。そこを解消するためには、子供たちの現状を把握した上で、安心して失敗できる環境作り、自分の意思・判断で行う活動を見守る体制作りが必要だと感じています。

自分で判断して行動できる「主体性」は、決められた役割を率先して行うことができる「自主性」を基礎にして、培われていきます。子供たちに役割を与えることや段階に応じてそれを子どもに任せていくことが大切です。何よりも、うまくできたときの承認と賞賛が子どもの成長につながります。これからの予測不可能な未来で子供たちが輝けるように、「チーム宿利原」みんなで力を合わせましょう。